（新人戦決勝戦の戦評）

今大会第５シードの花咲徳栄(今年度インターハイ出場チーム)対第７シードの久喜(新人戦ディフェンディングチャンピオン)の対戦。

花咲徳栄は、準決勝で第１シード本庄第一の猛攻を粘り強く守り、少ないチャンスをものにして決勝まで勝ち進んできた。

　一方の久喜も準決勝では、第３シードの入間向陽に辛勝しお互い、苦労して決勝まで勝ち進んできた。

　決勝では、両チームともサイドから活路を見いだす展開となった。前半13分、久喜⑩が左サイドからグラウンダーのアーリークロスを入れる。花咲徳栄がクリアしたかに見えたがミスヒットしクリアし損ねたところを、逆サイドから走りこんだ⑪がゴールに押し込んで、久喜が先制する。

　そのあと、花咲徳栄は前線の②と⑩を起点に右サイドの⑧や、左サイドの⑪へ展開してスピード感のある攻撃を何度も仕掛ける。

　再三シュートチャンスを作るが、久喜のディフェンス陣がことごとくブロックし花咲徳栄に得点を許さない。

後半19分には、花咲徳栄の⑪が高い位置で久喜ディフェンスとうまく入れ替わり、ペナルティーエリアに進入してシュートを放つもGK正面。

久喜は、最後まで花咲徳栄の猛攻をしのぎ2年連続の優勝を勝ち取った。